

表-1 観光地域における到着・出発時刻特性

	アクセス時間	サンプル数	a. 第一目的地		c. 最終訪問地	
			到着時刻	平均値	退出時刻	平均値
日帰り	～2時間圏	381	10:44	1:42	14:30	2:37
	2～4時間圏	303	10:52	1:46	14:38	2:14
	4～6時間圏	85	11:56	2:07	15:02	2:02
	6～8時間圏	20	13:30	2:01	15:15	1:12
宿泊	～2時間圏	39	11:51	3:22	14:23	3:14
	2～4時間圏	158	12:13	3:41	13:54	2:28
	4～6時間圏	85	12:23	3:15	13:34	3:06
	6～8時間圏	20	12:47	2:24	13:52	2:36

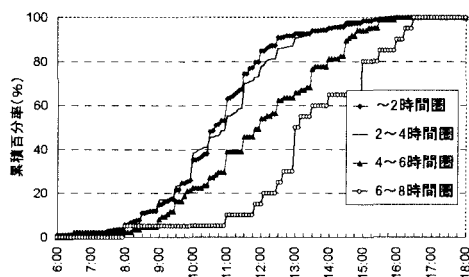


図-3 日帰り客のアクセス時間圏別第一目的地到着時刻

(2)c最終訪問地退出時刻

宿泊客ではアクセス時間による退出時刻の差異が認められないのに対して、日帰り客はアクセス時間の短い客ほど早い時刻に退出する傾向が見られる。アクセス時間の短い日帰り客はこの地域へ再び来訪することが容易であることから、あまり欲張った行動をしないことによるものと推測できる。

3.3 観光スポット別滞在時間

日帰り/宿泊による違いはほとんどみられなかった。そこで、図-4のように観光スポット滞在時間の分布を道路交通センサスの9つのBゾーン(図-2)別に分析を行った。表-2は、これらのサンプル数と平均値を滞在時間の短い順に並べて示したものである。これらの結果より、A.(1)会津若松や(3)喜多方、(6)猪苗代南、(8)安達太良では1時間半程度、B.(4)五色沼や(7)吾妻、(9)白布では1時間前後、C.(2)磐梯町や(5)猪苗代北では40～50分の滞在というように大きく3つのグループに分けられる。そこで、それぞれのゾーンにおけるスポットでの活動構成率(図-5)をみると、滞在時間が1時間以上と長いA.のグループでは、「みる・体験(食事など)」の活動の割合が高い傾向にある。

3.4 宿泊前後の動き

宿泊前後に関わる時刻の平均値と標準偏差を示したものが表-3である。これより、d 宿泊前最終訪問地退出時刻は平均14時52分であり、当日帰宅する客のc 最終訪問地退出時刻(表-1)と比べて遅くまで活動している。また、g 宿

表-2 ゾーン別スポット平均滞在時間

ゾーン	サンプル数	スポット平均滞在時間	σ
(5)猪苗代北	209	0:39	1:09
(2)磐梯町	10	0:48	0:54
(9)白布	74	0:54	1:39
(7)吾妻	452	0:59	0:59
(6)猪苗代南	546	1:03	1:33
(4)五色沼	1,083	1:14	1:29
(1)会津若松	617	1:16	1:26
(3)喜多方	274	1:28	1:45
(8)安達太良	118	1:42	2:00

表-3 宿泊前後の動き

	平均値(σ)
d 宿泊前最終訪問地退出時刻	14:52 (2:36)
e 宿泊地到着時刻	17:03 (2:17)
f 宿泊地出発時刻	9:35 (2:10)
g 宿泊後第一目的地到着時刻	10:52 (2:15)

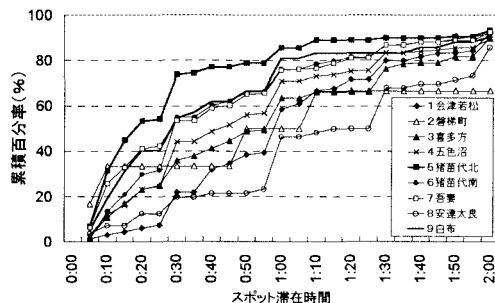


図-4 ゾーン別観光スポット滞在時間分布(日帰り+宿泊)

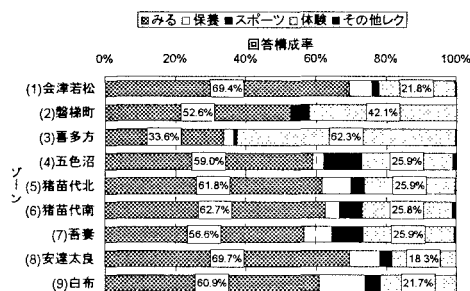


図-5 各ゾーンにおける観光スポットでの活動構成率(MA)

泊後第一目的地到着時刻は平均10時52分であり、当日自宅を出発する客のa 第一目的地到着時刻(表-1)と比べて早く到着し、活動を始めている。このことより、宿泊客はゆとりをもって活動していることがうかがえる。

4.まとめ

日帰りと宿泊、観光客の居住地からのアクセス時間、観光スポットにおける活動特性による、出発/到着時刻や滞在時間に関する相違を分析した。今後、これらの結果を用いて各種のモデルを作成し、観光地における交通流動シミュレーションの開発を行う。

参考文献

- 建設省土木研究所：全国観光交通実態調査，土木研究所資料第3270号，1994.2.